

米山 忠俊 君 芦田君に協力して。

本間建雄美君 本日はロータリー財団芦田君と同席しましたので。

芦田 義重 君 皆さんの財団ボックスに協力して頂いた御礼に。

S A A: 笹原勝治

—なぜ近鉄は敗れたか— 10月21日から開幕の1989年度プロ野球日本シリーズは29日絶対絶命のピンチから奇跡ともいえる大逆転で巨人が優勝した。近鉄は何故3連勝のあと、4連敗したのか、私は今日(29日)車中で第7戦を聞きながら考えてみた。解説をしていた評論家の広岡さんも、第4戦で流れを変えた香田投手も、第3戦の勝利投手加藤哲の発言を問題にしている。その発言とは「クロマティだけは脱帽、でも後は全く怖くなかった」「この程度の相手に負けたらオリックス、西武に申し訳ない。明日決まるでしょう」さらには「パリーグ最下位のロッテのほうが一発がある分まだ怖い」とまで言われている。この発言を広岡さんは「同業者としての慎しみがほしい」と評していたが、私は加藤の発言を聞いて、これで近鉄の「つき・運」が逃げたなと思った。最近、興味を持っていることに「つき」というか「運」ということがある。例えば、AとBの社員どちらを店長に任命するかいえば「ついている」方を店長に選ぶのがよい。また、将棋や囲碁の専門家のように勝負の世界に生きている人は、なかなか自慢をしない。特に、2日間にわたる名人戦や本因坊戦などでは、1日目が終わる2日目が始まるまでの間などでは、観戦者から、どんなにおだてられたり、誉められたりしてその対戦の感想をきかれても、決して対戦途中の場面については自慢をしないものだ。なぜかといえば、自慢した場合は、必ずといってよいほど、その対戦では敗れてしまう。これを「つき」や「運」で説明するとこうなる。もし、神があるとするならば、この世は神(造物主)の思召しによってつくられ、動いているものだと考えればよい。神の存在を否定した人は、この世は「天地自然の理」によってつくられ、動いていると考えてください。そして、この神の合意とか、天地自然の理にかなう言動をするとつくし、運が転がり込んでくるようだし、一方、神の意向や天地自然の理に反する言動を行なうと、つきや運が逃げていくといえる。いうならば、加藤哲の傲慢な発言は、神や天地自然の理が喜ばない言動であり、だからつき管理のできない仰木・近鉄は敗れたのである。では、「つき」とか「運」の原理は何なのか。どうすれば「つき」がつき「運」がむくののだろうか。①プラスの発想 プラス発想というのは、よいほうの夢、希望、目的を持ち、それらが実現すると思うことだ。②自助型 「つく」人は努力、苦勞をいとわない。責任感も強いし、よく辛抱をする。③制約を乗り越える 3番目は、心理的な制約の問題だ。おもしろいことに、心理的に制約の多い人ほどつかない。運もない。「あれもダメだ、これもできない」ではそれこそダメである。その点では、藤田監督のつき管理は徹底している。第5戦「おまたせ原の強烈満塁弾」のコメントは「原に何かやってくれそうな雰囲気があった。この2試合は近鉄らしさが消えている。最後の1つを勝つことの難しさを感じているはずだ。そうは言っても、うちに剣ヶ峰が続いていることに変わりはない」この日本シリーズは監督のつき管理の差であったと私は言いたい。

卓 話： 「最近のソ連事情」セルゲイ・ブガエンコ氏



年令は24才です。家族は父と母と弟との4人家族です。父は55才でハバロフスク極東のジャーナリストです。ソ連ノブス通信社という会社に勤めています。母は眼科の先生で、弟は学校を卒業して軍隊に入っています。ソ連では義務ですから2年間誰でも行かなければなりません。私は今年の7月にハバロフスク教育大学を卒業したばかりです。専門は教育と英語でした。学校で英語とドイツ語の勉強をして日本語は独学で勉強したので、ロシア語と含めて4ヶ国語を話せます。但し、ドイツ語は判る事は判りますが、あまり良く話せません。1番難しいのはドイツ語です。それは文法が難しいからです。言葉の変化が多くて、文の作りが違うからです。日本語は敬語が難しい。日本語は1人で8年間独学で覚えました。日本に友達が居て、彼らがハバロフスクに来た時に話をしたり、発音を直したりして覚えました。趣味としては、音楽、散歩、観光が好きです。スポーツも好きですが、大学の時は勉強、勉強で時間がなくてあまりやれませんでした。その他ドライブが好きです。日本語を覚えた理由は、父がジャーナリストで、日本人と会う事がたくさんあって、家に良く日本人の方がいらっしゃる事がありました。私が生まれた時に、私の親が東京の人と親しく成り、その人が私の日本のパパと言えるかも知れないけれど、その人と一生懸命に話したかったので、それがきっかけとなって、勉強を始めました。そして日本には、今友達がたくさん居て、文通する時は日本語を書かないと通じませんので、一生懸命勉強して来ました。これから日本で少し働きたいのです。ロシア語を教えたり、そして経済と貿易を勉強したいです。将来は先生がいいですけど貿易会社に入りたいです。ソ連は貿易が繁んに成るでしょうから、貿易について知っている人が必要に成ると思います。ソ連で日本についての本を色々読んだが、どんなに素晴らしい本でも完全に伝えてくれるものはなかった。感覚まで教えてくれる事が本ではできない。日本に来て見ての印象は、本当に狭い国だと思った。初めはこわかった。車がたくさんあって、道が本当に狭くおどろいた。又、日本人が伝統を重ずる事にびっくりしました。例えば友達と話をしても、結婚の話に成ると御見合結婚が多く、年をとった方は1番最初に家の事を考えます。それはソ連にはありません。ソ連の女性と日本の女性との違いは、ソ連の女性はアメリカやヨーロッパの方と似ていて、アメリカナイズしていますが日本の女性はちょっと違います。まだ日本に来て2カ月しか経過していないので良く判りません。日本に来てまず佐渡に行きました。佐渡のトライアスロンに行って来て、佐渡に友達ができて、その方と佐渡を1周して来ました。その次に軽井沢に行き2日間キャンプをし、東京に1週間行き六本木に泊り、東京を1人でブラブラ見て来ました。後は柏崎と長岡と新潟に行きました。食物はみんな好きですが、梅干と納豆は苦手です。日本に来て3kg太りました。ペレストロイカについては、初まってから4年間経過しましたが、その為にソ連は大変変りました。ソ連と米国が仲が良くなり、これからは日ソ関係も